



一般社団法人 鹿児島県住宅産業協会 KAJUKYO

鹿住協だより Vol. 8
2016年 7月号

【事務局】
〒890-0073 鹿児島市宇宿 2 丁目 1-8 日米礦油ビル
TEL 099-285-0101 FAX 099-285-0122

2016年度 7 月定例会



定例会の冒頭で挨拶する
逆瀬川勇理事長

県住宅産業協会（逆瀬川勇理事長）の7月定例会が7月21日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで開かれた。会員ら約80人が出席し、今後の活動方針や全住協鹿児島大会に向けた取り組みについて意見交換を行った。

逆瀬川理事長は、挨拶の冒頭で熊本地震視察研修における成果について触れ、「実際に見て話を聞くことで、災害の状況や復旧作業の進捗状況など把握できた。いざ鹿児島で災害が発生したとき、何をしなければならぬのかを参考にし、プラス思考で進んでいくことが成長につながる」と呼び掛けたほか、「引き続き、被災地への支援を行っていかねばならない」と話した。

定例会では、各委員会が活動報告や運営の経過状況を発表。全国大会に向けた準備や計画、会員増への取り組み、中古住宅

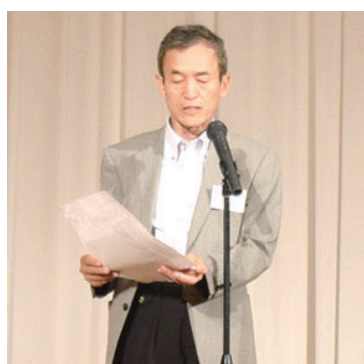
の流通問題などに関し報告したほか、研修委員会の上野敏孝委員長が、熊本地震災害視察研修の結果報告を行った。

また、新規入会の㈱ショーワの紹介や、今後入会予定の新開工業㈱（岡元彰社長）もオブザーバーとして参加した。

有菌米也総務委員長の乾杯の発声で開宴。出席者らは互いに杯を酌み交わし、同協会が社会に果たすべき役割や展望について語り合い親睦を深めた。



有菌米也総務委員長の発声で乾杯



熊本地震視察研修の報告を行う
上野敏孝研修委員長

熊本地震視察研修

熊本地震発生から3カ月が経過。県住宅産業協会は7月15日、特に被害の大きかった熊本城や益城町などの視察研修を行った。同日は会員ら17人が参加。実際の被害状況や復旧状況を目の当たりにすることで、さらなる支援の必要性を痛感した。

熊本市内では、屋根瓦が剥がれ落ちた熊本城の天守や櫓、門、崩れ落ちた石垣などを見学。また、1階部分の駐車場が圧崩したRC造9階建てマンション（1974年建設）、益城町の全半壊した住宅、仮設住宅の建設現場などを巡回した。被害は広範囲にわたり起こっていて、あちらこちらにブルーシートで覆われた住宅も多く点在。道路脇や自宅駐車場にテントを張って生活している住民や総合体育館で避難所生活を強いられている方々の苦勞が垣間見えた。



被災現場での集合写真

【参加企業は次の通り】

日本ガス㈱/㈱上野城/㈱コアガス日本/丸天建設㈱/㈱さくらハウジング(2人)/三洋ハウス㈱/マル川建設㈱/㈱富士土木エンジニアリング/㈱アイランドホーム/市田兄弟土木㈱(2人)/グリーン開発㈱/㈲カジキ不動産/㈲すべ産業/県住宅産業協会事務局/㈱鹿児島建設新聞

新規入会員

introduce

住宅に関連する企業が多く、プロ集団の集まりだと感じた。さまざまな情報を求めている一般の方々の相談に乗り、困り事や要望を解決していきたい。また、会の一員として一層の発展、成長に協力していきたいです



豊平 郁代
(㈱ショーワ取締役常務)

次回定例会のご案内

next schedule

日時 平成28年9月15日（木）18:00～ 場所 鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市与次郎）

演題：「熊本地震に関する緊急セミナー」

講師：ジャパンホームシールド㈱
地盤技術研究所 小尾 英彰氏

受付 17:30～
セミナー 18:00～19:00
定例会 19:00～21:00